

廃品回収（PTA・生徒会）・・・地域ぐるみの歴史を感じます



本年度2回目の廃品回収を11月18日(土)に行いました。町内18か所のゴミステーションで保護者と生徒がリサイクルできる、アルミ缶、スチール缶、段ボール、新聞紙、紙パックを回収しました。それぞれのステーションに担当が立ち、地域の方からの廃品を受け取り、トラック班が回収し香南市役所夜須支所北駐車場で業者の収集車に積替え



ました。風が冷たく防寒着が欲しい早朝の作業でした。いつか、小粒ですが冷たい雨が降り、ジャージ姿では辛かったと思います。

各ゴミステーションから帰ってくるトラックだけでなく、地域の方が次々に自家用車で廃品を持ってきてくれました。廃品を積んだ車が着くと、生徒の皆さんは自分から車に駆け寄り、段ボールや新聞を腕いっぱい抱えて運んでいました。アルミ缶とスチール缶の仕分けは汚れがひどく手も冷たい作業ですが、誰かに押し付けることなく、黙々と仕分け作業を行う姿にとっても関心しました。活動を通して感謝しあう関係が育っているとも感じました。ご協力いただいた保護者、地域の皆様に深く感謝いたします。

母親になった教え子の言葉から

もう20年以上前の話です。学級担任として仕事をしていたときに、その年20歳になる教え子から結婚と妊娠を報告する電話がありました。彼女は中学2年生で転校生として私のクラスに入りました。転向前の学校では親と先生を困らせることを繰り返していたらしいが、転向してきた彼女は何の問題も起こさず、根っから明るいキャラクターでクラスのムードメーカーであり、学級で取り組む行事などではいつもリーダーとして活躍していました。

卒業させた教え子から電話があるのは嬉しいことです。結婚と妊娠の報告から数か月後、子どもが生まれたから見に来てほしいと電話がありました。出産の翌日、夜では面会できないため帰りの学活を学年団の先生にお願いして病院に行きました。母親になった彼女と並んでガラス越しに赤ちゃんを見ました。

「先生、出産は鼻からスイカを出すようなことやと聞いたことがあったけど、本当で。鼻からスイカで。」と笑いながら話してくれました。そのあと、少し真剣な表情で「この子を産んで、最初にしたことは何やと思う？」と聞かれました。『名前をつけた』ではありきたりですが、私には他の答えを想像できませんでした。答えは「お母さんにあやまった」でした。「お母さんには、いっぱい反抗し、いっぱい心配かけてきた。けど、妊娠と出産はすごいことで、こんなにしんどい思いをして産んでくれたと知ると、お母さんにあやまらないかんと思ったから。」と話してくれました。私は、この感性あふれる教え子に出会えたことに感謝しました。

親に限らず、大切な人に正直な気持ちで向き合うには、自分自身の幸福感や命を感じた瞬間なども相まって伝えたいものだと思います。そのときがきたら、勇気をだして自分の言葉で伝えたいですね。

12月の主な行事



12月2日(土) 県選抜野球香長土予選	12月 9日(土) 冬季新人卓球大会	12月22日(金) 三者面談
12月3日(日) 県選抜野球香長土予選	12月10日(日) 冬季新人卓球大会	12月25日(月) 終業式
12月4日(月) 参観週間～8日(金)	12月11日(月) PTA 朝の交通安全指導	※12月2日(土)ヤ・シィマラソン
12月6日(水) マラソン大会	12月15日(金) 生徒会役員選挙	1時間清掃活動を行い、マラソンを走ります。
12月7日(木) 県学力定着状況調査	12月20日(水) PTA 朝の交通安全指導	
※1・2年生	12月21日(木) 三者面談	

切 り 取 り 線

学校便り返信 NO.20

() 年 生徒名 () 保護者名 ()